



# 鳥取市総合教育センターだより

第3号 令和4年 9月27日発行

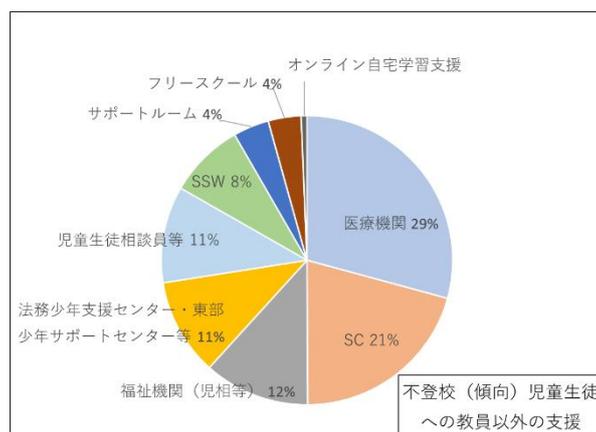
〒680-0053  
鳥取市寺町 150 番地  
TEL: 0857-36-6060  
FAX: 0857-26-3878  
E-mail:  
kyo-center@city.tottori.lg.jp

## 不登校対策専門委員会・いじめ防止対策推進委員会より

所長 安田 直人

総合教育センターでは今夏、それぞれ本年度第1回目の鳥取市不登校対策専門委員会・鳥取市いじめ防止対策推進委員会を開催し、専門家や有識者、関係諸機関、小・中学校長会の方々より、本市の現状や取組等について御意見をいただきました。

不登校児童生徒数は、全国傾向と同様に本市においても年々増加しており、昨年度は小学校 155 人（出現率 1.63%）、中学校 240 人（同 5.17%）で、平成 8 年の調査開始以降最多でした。各学校においては、不登校が生じないような学校づくりとともに、不登校やその傾向にある一人ひとりの児童生徒に対して効果的な支援を行っていただいているところです。昨年度は、担任の先生をはじめ、小学生 90.1%、中学生 83.4%が担任以外の先生や専門機関の方々とのつながりがありました。



右欄は「家庭で実践できる」と保護者向けに紹介された新聞記事の一部ですが、不登校（傾向）の子どもたちは、親や周囲との「人とのつながり」の中でこのように自己肯定感が育まれ、社会的自立に向けて歩みを進められるのだらうと思います。

いじめの認知については、各学校で細やかに児童生徒の困り

感を把握し、「いじめが疑われる」事案が積極的に認知されている結果、近年は年間約 1,400 件程度で推移しており、昨年度は 1,456 件（小学校 1,307 件、中学校 149 件）でした。年度末時点で「解消済み」78%、「解消に向けて取組中」22%であり、粘り強く丁寧に対応がなされている様子がうかがえました。一方、「同一児童生徒による」いじめ件数が、前年比 10 倍以上の 462 件にのびりました。これは特定の学校の一人による件数ではなく、多くの学校で同一児童生徒により繰り返し行われたいじめの累計数です。

いじめ（が疑われる事案）の対応にあたっては、いじめを受けた児童生徒の支援・ケアとともに、いじめを繰り返さないために、いじめを行った児童生徒への適切な指導・支援が欠かせません。そのためは、表出した言動・現象のみを捉えた対症療法的な指導に終始するのではなく、いじめを行うに至った背景、発達課題や愛着課題等の要因の見取りとそれに応じた支援が必要です。個人や学年団の判断に留めることなく校内組織で情報が迅速に共有され、より多面的・多角的にアセスメントすることが求められます。

また、特に中学校において、いじめを受けていても「誰にも相談していない生徒」が一定数おり、その数が年々増えてきていることから、周囲に助けを求める等 SOS を発信することについて学ぶ必要があるように感じました。

※文中の「小学校」は「義務教育学校（前期課程）」、「中学校」は「義務教育学校（後期課程）」を含みます。

**自己肯定感を育む 4 ステップ**

- ① 認めてくれる人の存在を実感する
- ② 自分のいいところに気づく
- ③ 成功体験を重ねる
- ④ 誰かの役に立てることを知る

不登校新聞（全国不登校新聞社）585 号

## 研修企画係

今年度の研修も約8割が終了しました。昨年度に引き続き、多くの研修を遠隔方式での実施としておりますが、受講者同士の学び合いを促進するために、複数の遠隔研修でグループセッションを取り入れ、対話やアウトプットの機会を設けています。また、中堅教諭等資質向上研修や初任者研修・新規採用養護教諭研修では集合方式を行い、ともに学んだり、互いの悩み等を共有し協議したりすることで、今後のスキルアップにつながる研修となりました。



初任者研修③・新規採用養護教諭研修②より



## ともに学ぶ～初任者研修・新規採用養護教諭研修～

着任してからの教育実践を振り返り、「自らの成長」や教師としての「悩み・困っていること・自身の課題」を共有し、相互の実践に活かすことと、受講者相互の共に高め合えるネットワークを構築することをねらい、集合研修方式で行いました。小グループで4月から夏休みまでを振り返り、協議や情報共有を行いました。また、後半ではセンター指導主事がアドバイザー役として加わり、課題解決に向けての協議を行いました。

### 振り返りシート「実践したい My アイデア」より

- 自分のできることをコツコツと実践して身につけていく。積極的にアドバイスや助言をもらい自らもスキルアップを目指すと共に、効率の良い職務遂行ができるように過ごしていけるようにする。
- 黄金の三日間は、夏休み明けも同様なので、前半の良さを誉めつつ、伸ばしてほしいポイントをわかりやすく伝えること。
- 信頼関係の構築のため、休憩時間に子どもたちと遊ぶ時間を確保したり、子どもたちの話にしっかりと耳を傾けたりする。当たり前のことだが、休日はしっかりと体を休め、体調を崩さずこれからも継続して、笑顔で子どもたちの前に立てるようにする。

## 異業種に学ぶ～校長研修・中堅研修～

校長研修②では株式会社メモワールイナバ代表取締役会長光浪房夫氏、中堅教諭等資質向上研修④では元全日空CAで女性初の全日空支店長も務められた鳥取市教育委員山脇彰子氏を講師にお迎えし、企業経営や民間でのキャリアにもとづいた講話をいただきました。異業種の方のお話から、職業人としての在り方を学ぶとともに、学校経営や今後の仕事を進めるうえで大切にしたいことについて考えることにより、学び多い研修となりました。

### 振り返りシート「特に心に残ったこと」より

- 仕事人としての立場で身の処し方を考えておられるのではなく、一人の人間としてのあるべき生き方として考えておられることが伝わってきた。
- 「率先垂範」、リーダーとしてやはり出発点はここだと確認した。自分自身に磨きをかけて、信頼関係づくりの研鑽に努めたい。
- 仕事に対する真摯な姿勢をお話しぶりから伺うことができた。職種は違えども仕事に対する考え方や姿勢についてのお話がとても参考になった。
- どんな場所や状況でもコミュニケーションは大切。それを前向きに笑顔で人と関わっていくことや、その人たちとの繋がりも大切にすること。チャレンジ精神は人とのよい出会いや自分の成長とつながり、経験を豊かにしてくれると、改めて感じた。

## 今日的課題を学ぶ～副校長・教頭研修等～

副校長・教頭研修②、特別支援教育主任研修②・特別支援学級担任研修②、幼保小中連携研修では、それぞれ「働き方改革」「一人一人のニーズに応じた指導・支援」「連続した15年間の学び」という今日的な課題についての講義演習を行いました。講義では新しい知見に触れるとともに、大切なことにあらためて気づかされました。また幼保小中連携研修では、幼稚園保育園と小中学校の受講者がともに幼稚園の動画を見て意見交換をする貴重な機会となりました。

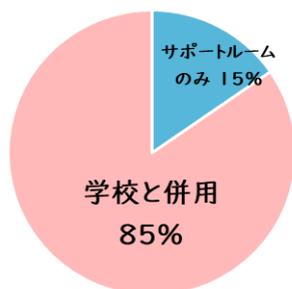
### 振り返りシート「特に心に残ったこと」より

- 働き方改革は、教育の質を高めるためのものであることが再認識でき、今後改善の視点をはっきりさせ、進めていきたい。最初に、「学校はベルトコンベア」と言われたが、あまりの忙しさに思考力が麻痺している状態に陥っている気がした。「働きたい」と思う職場にした。
- 多数派の子どもと教師が変わるという発想、その実現に向けて自分のよさや可能性を認識する。そして、他者や多様性を尊重し、共生社会の担い手となる子どもたちを育てていくことを、学校全体でやっていきたいと強く思った。
- 保育園幼稚園の教育活動の意図を知ることが大切だと思った。手厚い支援や準備があり、どの園児も教育活動に集中している姿は小学校でも見習いたい。小学校6年間を通じた基礎になるところが幼稚園保育園で行われていると実感できた。

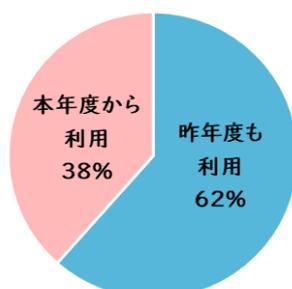
# 不登校児童生徒への支援の充実に向けて



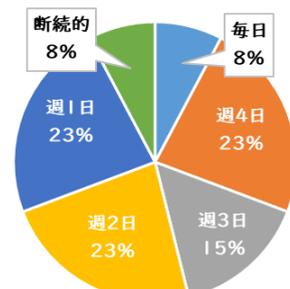
## サポートルームの活用



学校との併用



利用状況



利用頻度

本年度サポートルームに通っている児童生徒の9月22日現在の状況をグラフにしたものです。年度によって利用状況は異なりますが、新規の利用者が約4割で近年は学校と併用している児童生徒が多くなっています。

サポートルームに通っている児童生徒のニーズは様々で、学校や保護者と連携して支援に当たっています。また、学校や保護者との連携にSSWが関わることもあります。中学生は、定期テストや部活がきっかけで登校につながる例があります。また、中学校3年生になると進学に向けての意識が高まることから、中学校から本人、保護者だけではなくサポートルームにも入試に向けた情報提供をしていただき、本人の意向を確かめながら進路実現に向けて学校と一緒に支援しています。近年は、小中学生共にタブレットを活用している例もあり、児童生徒が担任の先生やCO教員との連絡にGoogle classroomを使ったり、学習にタブレットドリルを活用したりするだけでなく、サポートルームの様子をオンラインでやり取りする取組も行っています。また、今後行事や授業をサポートルームで見ることを検討している学校もあります。

例年、中学校の運動会が終わる頃からサポートルームの問合せや見学が増える傾向があります。夏休み明けに欠席が続いている児童生徒でサポートルームが適切だと思われる場合は御相談ください。また、児童生徒に紹介する前にサポートルームがどのような支援をしているところなのか話を聞きたい、実際に施設を見てみたいという学校からの御相談もお受けしています。どうぞ御検討ください。

## 鳥取市フリースクール利用料助成事業補助金

不登校または不登校傾向の児童生徒が増加するにともない、学校以外の居場所としてフリースクール等を活用している児童生徒も増加しています。鳥取市では、令和3年4月より義務教育段階にある児童生徒がフリースクールまたは教育支援センターに通う場合、保護者の負担軽減を図ることを目的に経費に対する支援を行っています。

令和3年度に活用された保護者からは「活用できてよかった」という声を多数いただいています。補助対象者や対象施設には条件がありますので、詳しくは担当にお尋ねください。申請に必要な書類等、詳細は鳥取市のホームページに掲載しています。右の二次元コードからもアクセスできます。



【サポートルーム、フリースクール補助金についてのお問合せ先】  
児童生徒支援係 0857-36-6060